

平成 26 年度「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「プロジェクト型」共同研究

北東アジア先住民の民族誌再評価

構成員： 永山 ゆかり（北海道大学文学研究科・助教）代表
丹菊 逸治（北海道大学アイヌ・先住民研究センター・准教授）
長崎 郁（国立国語研究所・研究員）
江畑 冬生（新潟大学・准教授）
後藤 正憲（スラブ・ユーラシア研究センター）アドバイザー教員

研究協力者

池田光穂（大阪大学・教授）
小野智香子（千葉大学・特任研究員）
松本亮（京都外国語大学・非常勤研究員）
山田敦士（北海道医療大学・准教授）

1. 研究の概要

本研究の目的は(I)北東アジア先住民に関する民族誌の整理と比較、(II)フィールドワークを通して得られた民族に対する理解から見た民族誌記述の再評価、(III)民族誌およびその関連分野の研究に携わる研究者の学際的なネットワーク構築の3点である。

本研究で対象としている北東アジア地域では、帝政ロシア時代およびソ連時代初期にある程度包括的な調査が行われているものの、ソ連時代のロシア人研究者以降、文化人類学の調査がほとんど行われていない。本研究で取り上げる先住民の大部分は、固有の言語が消滅の危機に瀕しているマイノリティーであり、民族固有の言語・文化は、圧倒的な優位に立つロシア文化の中で急速に失われつつある。上記の民族誌が書かれてからおよそ100年が経過している現在、これらの民族誌を現代の研究成果を踏まえた視点で再検討・再評価することが急務である。なお、第一回研究会で民族誌中の言語記述にかんする報告が多かったため、当初の方針を一部変更し、民族誌記述全般ではなく、言語資料の再評価にテーマを絞って研究を続けた。

2. 研究の実施状況

研究目的に従い2度の研究会と出版打ち合わせを1度実施した。研究会では各構成員および研究協力者が、それぞれの調査地域における民族誌記述を整理・報告したほか、方法論の研究と問題点の共有を行なった。

結論として、3点の研究目的について十分な成果が得られたといえる。とくに研究目的(II)については、100年以上前に記録された言語資料は、表記や分析方法に問題があるとしてこれまで言語研究の資料とはなっていないが、すでに現存しないと考えられる言語集団の存在を示唆するものである、それらの集団が話していた言語の記録として唯一のものである、ロシア側資料には記録されていない異なる民族集団間の関係を読み取ることができるなどの点で貴重であることがわかった。

本研究により明らかになったのは再評価の対象となりうる資料とそれぞれの価値ならびに利用方法であるが、今後はこれらの資料を詳細に分析し、さらに共同研究を進めていくべきであるという点で共通見解に達した。

研究会の詳細は次のとおりである。

2014年5月24日（土）第一回研究会

- 「18世紀～20世紀初頭のコリヤーク語・民族誌資料」（永山ゆかり／北海道大学）
- 「17世紀末～20世紀初頭のユカギール語資料」（長崎郁／国立国語研究所）
- 「サハ語・サハ民族誌資料 — 19世紀以前を中心に」（江畑冬生／新潟大学）
- 「ニヴフ伝統歌の筆録：シュレンク調査隊の採録したニヴフ伝統歌とシュテルンベルグの

ニヴフ語叙事詩」(丹菊逸治/北海道大学)

話題提供者の報告

- 「イテリメン語(古アジア)」小野智香子(千葉大学)
- 「エベンキ語(ツングース)」松本亮
- 「ワ語(モン・クメール)」山田敦士
- 「中央アメリカ」池田光穂(大阪大学)

2014年12月20日(土) 第二回研究会

- 「イテリメンの民族誌と言語資料」小野智香子(千葉大学)
- 「民族誌資料から見たチュクチ・カムチャッカ諸語の言語分類」永山ゆかり(北海道大学)
- 「グルーベ資料・シュテルンベルグ資料のニヴフ語テキスト」丹菊逸治(北海道大学)
- 「W. ヨヘルソンのユカギール語テキスト資料」長崎郁(国立国語研究所)
- 「ウワロフスキのテキストに見るサハ民族誌」江畑冬生(新潟大学)

2015年3月28日(土) 出版・成果公開にかんする打ち合わせ

参加者：永山ゆかり、丹菊逸治、長崎郁、江畑冬生、小野智香子、後藤正憲

3. 研究成果公開

[口頭発表]

北方の言語と文化にかんする国際シンポジウム(2015年1月24-25日, 北海道大学)のセッション《民族誌の言語資料》(司会: 後藤正憲)において、構成員および研究協力者が口頭発表を行なった。<<http://cnh.let.hokudai.ac.jp/news/1459/>>

永山ゆかり(北方研究教育センター) クラシェニンニコフのコリヤーク語資料
丹菊逸治(アイヌ・先住民研究センター) 19世紀末に採録されたニヴフ語テキスト
長崎郁(国立国語研究所) V. I. ヨヘリソンのユカギール語テキスト
江畑冬生(新潟大学) ウワロフスキーによる最古のサハ語テキスト
松本亮(京都大学) 古いエヴェンキ語テキストの表記方法について
山田敦士(日本医療大学) 無文字社会における他者の記録: 中国雲南省ワ族の事例

上記に加え、2015年度以降に研究報告集を出版することをめざして準備を進めている。